

龍源寺報

秋彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職	佛母寺住職	正福寺住職	松原覚行	TEL	3451-1853
				松原行樹	FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

秋彼岸に思う — 石

私が、先住職である松原泰道師から聞いた話です。三島にございます龍沢寺の中川宋淵老師(明治四十年〜昭和五十九年)が、修行僧である雲水を連れて托鉢をしておられました。老師が列の一番後ろに歩いている。その列の中の一人が草鞋の紐がほどけ、列から外れた時、幼稚園くらいのかわいい女の子がでてきて、おそらく、大人が托鉢僧に何か喜捨しているのを見て、自分も何かあげたいと思ったのでしょう。道ばたの石ころを拾って、こともあろうに、一番後ろに歩いている中川宋淵老師のところに持っていったそうです。老師は、きちんと手を合わせ、その石を腰をかがめて受け取られ、何もなかったように、托鉢を続けられた。途中休憩所に寄った時に、その光景を見ていた雲水が老師に「先ほどの石、お捨てになつたらいかげでしょう」と申したら、「いや、あなたは石だと言うが、確かに、道ばたに転がっている時は石だが、その石をあのお子さんが私にくれたとき、手を合わせて受け取ったら、向こうも、もみじのような、小さなかわいい手で私にくれ、手を合わせてくれた。手を合わせてやりとりをした石なら

ば、石でもただの道に落ちていた石ではないんだよ」と言われたそうです。

石でありながら、隠すことなく、究極の真理を惜しみなく示している。手と手を合わせたそこに、ただの石ころでなく、真実や慈悲が説かれていた。逆に、悪意のある言葉や行いを石に喩えますと、恥ずかしいけれど、毎日のように、お互いが、悪意をもった言葉や行いをやりとりして神経をとがらせます。石庭で有名な龍安寺を題した、中川宋淵老師の詩を紹介させていただきたいと思います。老師は飯田蛇笏の激賞を受けた俳人としても有名です。

龍安寺

たゞ五十余坪の平庭に 白砂が敷きつめられてあるだけである。 大小十五ヶの石が 二つ三つつゞ五ヶ所に 屯たむろしてあるだけである。 低い土塀越しに 黄葉たむろしつゝした樹々が立ち並び、 空には巨きな雲がしづかに動いてゐた。 或人はこの庭を造園技巧の極致と激賞し、 或人は平常見て楽しむには あまりに厳格すぎると歎じた。 しかし 大多数の人々は このお庭のどこに こんなにまで有名になる理由がある

(次ページへ続く)

のかと あつけなく立ち去るに過ぎない。坐つたり、佇んだり、或は腹這ひ 睨んだり、瞑つたり、或は見透したりして、光陰のまたたく間に、茫茫と数刻が過ぎた。そして私の心が お庭と共に目覚めて来た。大多数の人が見るように、奇もなく妙もない処に 実はこのお庭の秘密があつたのである。 到り得、還り来つて 別事なき風光なのである。「仏法多子なし。」の端的が 石と化つて丸出しにころがつてゐたのである。 歡喜し踊躍しつゝ、私は山門を下つた。 見よ。 路傍のいたる処に 龍安寺のお庭があるではないか。 脚下の小石の ひとつひとつがうなづいてゐるではないか。 妙心。天龍。南禅。大徳。 諸山で拾つた小石たちが 京都を発つ私の頭陀袋の中で、 交契してゐた。

(中川宋淵『命篇』ペリかん社 p.110～p.114参照。)

中川宋淵老師の詩は、禅と詩が一体になった妙味があります。皆様に自由に鑑賞していただきたいと思ひます。石が目の前に、少しも隠さず真理(法)を見せている。目をそらさずに禅と庭の世界を感じ、自由な解釈をしていただきたいと思ひます。龍安寺の石庭は、謎が多いようです。龍安寺の石庭に行かなくても、龍安寺の石庭を感じていただきたいと思ひます。

〈禅語の紹介〉

「露堂々」(ろどうどう) (『貞和集』)

目前にあるものをみながら、少しも隠すことなく、はつきりと、究極の真理を惜しみなく示している。それ、そこに真実が説かれてゐるではないかと。 リンゴが枝から地に落ちた。それそこに、引力の法が露わに見えるではないか。

「峰の色 谷の響きも みなながら

わが釈迦牟尼の 声と姿と」 道元

◆写経会を再開します。どうぞ御来会ください。

日 時…毎月第3土曜日14時～16時
(8・12月は除く)

受 付…13時50分より花園会館

写経会…14時より『般若心経』の読経・

法話があり、写経会が始まります

会 費…2000円

携行品…小筆など書道用具一式

参加資格…どなたでもご参加いただけます

ます

*墨汁は使いません。墨を硯ですります。早く書写し終わりましたら、時間まで静かにお待ちください。間に合わなかつた方については、講師の先生に相談してください。

講 師…飯沼定子先生

著作 心が楽になる「観音経」―ペンで書く写経 松原哲明【著】飯沼定子

【書指導】 佼成出版社(2007/05発売)

寄付

金一千万円也 匿名殿

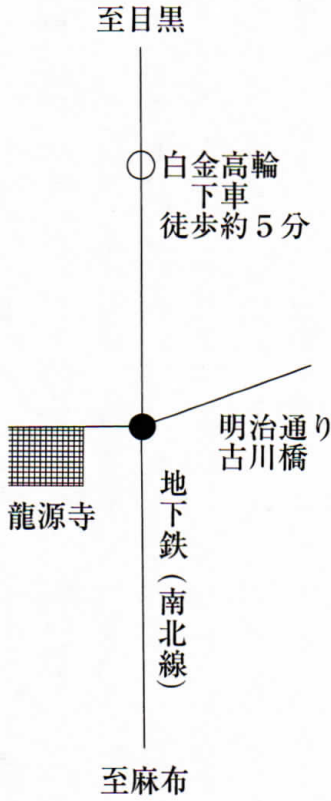
金三万円也 小池殿

写経会お祝い

金十万円也 飯沼定子殿

ありがとうございました

*将来は、本堂の裏地を整理して、大般若経を納める経蔵を建立する計画をしております。



秋ひがん法要

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、九月二十二日・秋分の日(午前十一時より)

一、法話

一、齋座(おとき)

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便(地下鉄)

● 都営三田線

- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり
(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)

龍源寺への交通の便(都バス)

- 田87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車

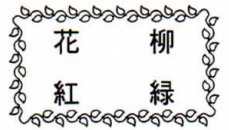
- 都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

- 品97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

- 反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ(循環)

魚ラン坂下・古川橋下車

- 東98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車



秋彼岸会を迎えます。高額の御寄進をありがとうございます。戦後三代続く借地整理のための資金に充てさせていただきますと思います

龍源寺東側の私道が少しずつ整備されるようになり、建築家の山本先生と総代の北村先生に大変お世話になっております。開発はされますが、龍源寺の静謐な環境は、守っていきたくて思っています。▼中川宋淵老師は、三島・竜沢寺専門道場で、哲明和尚が師事した老師です。花園会館の扁額には、哲明和尚宛の書簡、書院の短冊には、老師の俳句が昔から掛けられています。「龍安寺」が収載されている『命篇』という書物は、ペリかん社によって復刊されるまで、幻の書と呼ばれ、哲明和尚はそのコピーをいつも机の横に置いておりました。▼八月の後半は、北軽井沢にある日月庵で作務と研修の日々を送っております。おそらく地盤が溶岩で固いため、植樹された木は、根が深く張らないために、毎年何本かが風雪に

耐えられず、倒木となつてしまいます。その倒木で作った薪を二年乾かしますと、立派な薪になります。一人の時は、その薪で風呂を沸かしています。泰道和尚は風呂焚きが得意でした。▼六月二十日に長女が授かりました。お寺の山号の一字と私の一字をとり、瑞樹(みずき)といいます。宜しくお願い申し上げます。妻の垂矢は、お盆の前の位牌拭きを手伝い、本堂の畳拭きをしてから、お産となりました。一日一日、元気な泣き声を電話越しに聞きながら、「ありがたいな」と思いつながら過ごしています。里帰りでお世話になっている義理の父母に感謝しています。女の子の親になると、こういう大変さがあるのかと、自分の将来を垣間見ました。お彼岸には、母子ともに龍源寺に戻るとなっています。娘が二十歳の時、私は六十五歳。なんとなく、先が見えてきたような気がします。▼二十三歳という若さでお嫁いだ母にとつて、百歳近い実母と過ごす時間は、毎日が貴重な時間なのではないでしょうか。何十年と北鎌倉と東京という距離でしたが、離れて暮

らし、過ぎ去った時間の問題は関係ないようです。時間というのは、不思議なものです。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、僧侶がいらないとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思えます。葬儀社も信頼のある葬儀社を紹介させていただきます。丁寧な仕事で皆様に喜ばれています。渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。最近、墓地の改葬が増えてくるようです。又、若干ですが、墓地もございます。▼九月二十二日、午前十一時より、秋彼岸会の法要を厳修致します。皆さま、ご家族でお参りください。▼九月二十一日・十三時より、ちらし寿司のお野菜の刻みを行います。お手伝いいただける方、宜しくお願ひ申し上げます。これからも、お寺統の味を受け継いで行くために、初めての方の参加も歓迎いたします。(信樹)